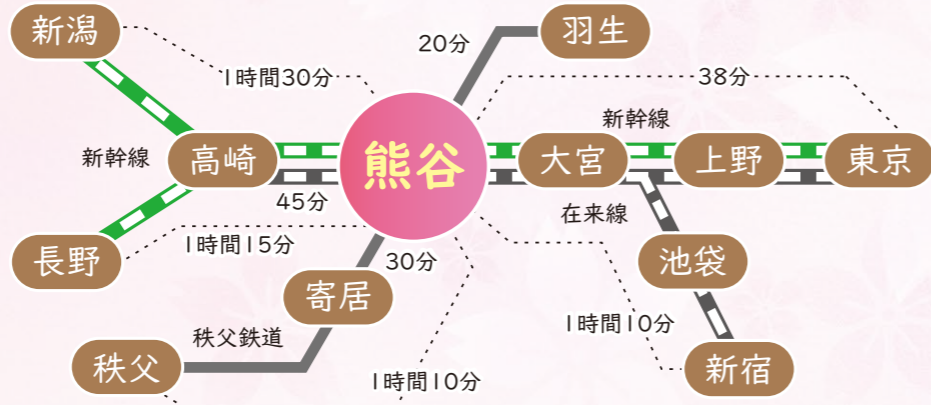


交通アクセス

電車でのアクセス

熊谷駅から東京駅まで新幹線で約38分。JR上越・北陸新幹線、JR高崎線及び秩父鉄道の各鉄道路線が直結しています。



車でのアクセス

関越自動車道や東北自動車道2路線からアクセスが可能です。

- 関越自動車道…
東松山ICから約30分
花園ICから約30分
- 東北自動車道…
羽生ICから約40分

※駐車場はございません。お車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。



参加申込のご案内

申込方法

下記コードから申込WEBページをご確認の上、株式会社日本旅行埼玉支店までお申し込みください。(本大会の受付業務を同社に委託しております。)

会場・参加費

	参加費	会場
シンポジウム	無料	熊谷市立文化センター文化会館
交流会	7,000円	マロウドイン熊谷
宿泊	有料	—
現地見学会	2,000円	熊谷桜堤ほか3つのコースから選択

参加申し込み・宿泊のお問い合わせ

《旅行代理店》連絡先・受付業務
株式会社 日本旅行埼玉支店
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町4-129
大栄ツインビルN館5階
TEL 048-648-0111 FAX 048-648-6455
受付時間／平日9:30～17:30
(土曜・日曜・祝日及び年末年始は除く)

さくらシンポジウムに関するお問い合わせ

2023全国さくらシンポジウムin熊谷実行委員会
熊谷市総合政策部スポーツ観光課内
〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町二丁目47-1
TEL 048-524-1473
受付時間／平日8:30～17:15
(土曜・日曜・祝日及び年末年始は除く)



主催/2023全国さくらシンポジウムin熊谷実行委員会、公益財団法人日本花の会 共催/熊谷市
※本大会は、公益社団法人日本造園学会の造園CPD認定プログラム(予定)、一般社団法人日本樹木医会の樹木医CPD認定プログラム(予定)です。

2023全国

さくら
in
熊谷
シンポジウム

こころ
みらい

さくらでつなぐ



令和5年 4月6日・7日

シンポジウムプログラム

- オープニングアトラクション
熊谷陣屋太鼓保存会
- 記念講演
「ゴルゴ松本 命の授業」 講師:ゴルゴ松本氏
- 活動事例報告
「住民のボランティア活動で夢が叶った1000本桜事業」
報告者:市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本桜事業
事務局長 岡部 幸夫氏
「花のお嫁入りの報告」
報告者:桜ファンクラブ 会長 横田 透氏
- 次回開催地紹介 茨城県桜川市

- 6日(木) シンポジウム 12:30～17:00
熊谷市立文化センター文化会館
- 7日(金) 現地見学会 9:00～12:00
熊谷桜堤 ほか

URL <https://www.city.kumagaya.lg.jp/kanko/oshirase/zenkokusakurasympo.html>



【両日とも事前予約制】詳しくはこちら➡

さくらでつなぐ
 こころみらい



1 万平公園

万平公園は旧熊谷堤の南側に作られた公園で、かつて洪水に備えて造られた堤防の名称を引き継いでいます。その堤防は「万平出し」と呼ばれ、建立を進めた熊谷宿本陣の竹井澹如翁の幼名「万平」から名付けられています。公園内には「竹井澹如翁碑」や養蚕と深い関わりのある「蚕霊塔」、桜堤の保全を記念した石碑などが建立されています。



2 熊谷桜堤

平成2年3月に、公益財団法人日本さくらの会から「日本さくら名所100選」に選定されました。毎年3月下旬から4月上旬に開かれる「熊谷さくら祭」には、約500本のソメイヨシノがおよそ2kmにおよぶ桜のトンネルをつくり、多くの人を魅了します。



3 中央公園

園内には、京都円山公園「祇園枝垂れ桜」の孫桜が2本、佐野藤右衛門氏の手で移植されており、「玉津留姫」、「千代鶴姫」と名付けられています。その他にも、12代目市川團十郎氏手植えの「駿河小町」や「熊谷桜」、「兼六園熊谷」など、たくさんの桜があります。



4 妻沼聖天山

平安時代末期に妻沼地域を治めていた斎藤別当実盛公によって開基した妻沼聖天山は、家内安全・商売繁盛・厄除け開運などあらゆる良縁を結ぶ御利益があることで知られ、「埼玉日光」として人気を集めています。江戸時代中期に建立された本殿「歓喜院聖天堂」は、日本を代表する本格的装飾建築で、国宝に指定されています。



5 根岸家長屋門

江戸時代後期に建てられた根岸家長屋門は、幕末の激動期に活躍した「根岸友山」と、明治時代に政治家・好古家として活躍した息子「武香」の生家を代表する文化財です。桜と風格ある建物のコントラストは圧巻で、郷土のシンボルとして愛されています。



6 小江川1000本桜

自治会が平成21年に市民提案制度に応募・採択され、植栽がスタートしました。毎年度、荒廃地を切り拓き、整備地に桜の苗木を100本ずつ植栽し、10年間で1000本植栽する計画で平成31年に1000本の植栽を完了されました。植栽した桜並木は5.2キロメートルに達し、散歩やハイキングロードとして愛されています。



7 石上寺

石上寺は江戸時代熊谷桜の寺として知られていました。歴代の忍藩主もたびたび石上寺を訪ね、文人墨客を集めた観桜の宴「大雅会」を催したという歴史があります。荒川の洪水で久しく熊谷桜は失われていましたが、近年熊谷桜の寺として復活しています。



8 星溪園

元和9年(1623)、荒川の洪水により当園の西方にあった土手(北条堤)が切れて池が生じ、その池から清らかな水が湧出し「玉の池」と呼ばれました。明治時代初期、熊谷宿本陣の竹井澹如翁が、ここに別邸を設けたのが現在の星溪園です。庭園と池、星溪寮、松風庵、積翠閣の数寄屋風建物などが景観美を作り出しています。

